



VENI! VIDI! ~~VICI!~~ PSALLI? 来た! 見た! 勝った! 演った?

五面、からすライブラリーへ!

第6巻第8号
通巻第68号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

毎号毎号この場所に何だかんだと書き記している。性懲りもなく何を書きつけているんだい、と問われると、何となく随筆のような、むにやむにやむにやと、自分でももやもやとして判然としれない。もともと、からす新聞が創刊されるときのこの欄の位置づけは、例えば天声人語のような一面下段のコラムのようなもの、といったところであった。格別の規則はないのだが、何とはなしにそのイメージに沿ったものを書いてきたのであった。フィクションでもノンフィクションでもなく、何となく独り言めいた、短い文章。書かれていくことの多くは、事実とそれに対する感想や意見といった類のものだが、中には、虚構だつて含まれていないわけではない。真実から離れて偽りの情報を放り込んでしまつのはなぜなのだろう、とふと考える。芸術上の効果を意図してのことなのか。読者を言はせたい、というような受けを狙つたものなのか。それとも、ただの虚言癖によるものなのか。あれこれと考えを重ねてみても、釈然とすることなく。

一般的に言えば、新聞というものは事実を伝えるためのものである。もちろん、中には『東京スポーツ』のように、新聞的な体裁をも

ちながらも主にフィクションを提供することを目的としているものだってありはするが、それはあまりにも特種な例なので、ここでは世に言う一般紙の類を思い浮かべてほしい。普通の人は、新聞を何紙も何紙も丁寧に読んだりはいないものである。なぜなら、全体としてみれば、それぞれの新聞にはそれなりの個別の方向性が見取れるはずけれど、主たる記事に関しては、それが朝日であろうが読売であろうが毎日であろうが、実のところ、大きな差があるはずがない、と考えているからだろうし、実際のところ、微細な差は存在すれども、内容は似たようなものであり、通常の目的からすれば、敢えて、読み比べる必要は感じられない。その大差ない内容こそが世間では「事実」だと考えられているものなのだろう。テレビやラジオのニュースに関しても同様。そして、メディアが配給する「事実」は、新聞に載っていましたもの「だの」「テレビで言っていたんだよ」などという浅薄極まりない理由で真実として流通してしまうこと屢々。人々は易々としてメディアに踊らされ、おかげでメディアに関わる者どもは勘違いも甚だしく、おれさまたちが世界を動かしているんだぜ、と鼻息荒く。ばっかじゃなかるか。

(最終面に続く)

からす新聞は××××

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。

今日の紙面から

一画 建築面)

南米チリの住宅設計

三丁五画からすライブラリー)

ライブ・アット・あさがやドラム

本 『西洋哲学史』

映画 『ゴーストワールド』

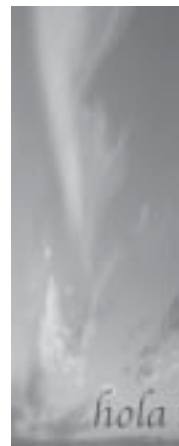
六画(国際アート面)

ロンドンレポート

七画(語面)

オリンピック柔道英語雑記





ぼくたちが普段いる事務所は、緑豊かな団地の中であって明るい陽ざしが降り注ぐ。当然のことながら、全ての建物は南を向き、自然の恵みを享受できるように設計されている。

ひょんなことから、南米のチリで住宅を設計することに、ちよつと関係してしまった。海そばの丘陵地に、新たに住宅地を開発して建売住宅を建てるらしい。建売とは言つものの、お金持ちのセカンドハウスだから、普段、我々が言う建売とは、まったく別の建物なのだ。遠くに山を望む500坪もの絶好の敷地に、緑豊かな環境のなかに大勢でパーティーもできる広々とした住宅が望まれている。

エスキースを始める。ところが、ひとつのちよつと、ま、それほどでもないのだが衝撃的な事実が気がつく。南半球では太陽は北にあるのだ。こんな当りまえの、小学生でも知っているようなことだが、僕らにとっては、どんな計画のときも、東京の真中で周囲を他の建物に囲まれた場所ですえも、「太陽は南にある」というのは、疑いを挟む隙のない計画の大前提であったから、これには少々戸惑った。

単に南が北に変わるだけなら、図面を逆さにして考えればよいのだから、それほど大きな問題にならないのだが、地球の自転の方向は変わらないのがせものなのだ。太陽は北にあつても、東から出て西に沈むということが、どうも長年培った設計の勘所をぐらつかせるのだ。図面を逆さにするだけではおさまらない、また線対称にしなれば。設計というのは、オブジェクトをつくるだけでなく、その場所の時間もつくる

から、こんな実体験に結びついた感覚が基調なのだ。

朝起きて、顔を洗つ。新聞を読みながら朝食を食べる。テラスでリラックスする。仕事や勉強をする。ねこが庭に遊びに来て、あそぼというので遊ぶ。散歩をする。美しい色とりどりの花を愛でる。本を読む。遠くに聞こえる波の音を聞きながらうとうとする。風がそよそよ吹く。車に乗って、夜の晩餐のために新鮮な魚を買いに行く。セラーからワインを選んでおく。・・・そして太陽が傾くころ、人々が集まって来る。そしてゆっくりと風呂に入り、やがて眠りにつく。といったところだろうか。部屋の配置も窓の開け方も、空間のつくり方が逆の勝手になる。

今、渋谷の事務所には、ニュージーランドからひとりの建築家が来ている。彼は、僕らを感じるのと逆のを感じののだろうか。地球上の陸地の70%あまりが北半球に存在し、一説によると人口の実に90%以上が北半球に住むという。人口の多い上位10カ国のうち南半球からはブラジルとインドネシアの大部分だけがランク入りしている。彼らにとっては、太陽は東から南を通つて西に沈むものである。低気圧の渦巻きは、北半球では左回りだけれど南半球では右回り。風呂の水を抜いたとき水は渦を巻いて落ちてゆくが、これも北と南では(理論上は)逆。月の満ち欠けも、北半球では右側から、南半球では左側から。けれど、南半球でも偏西風は吹き、陸上のトラック競技はどこでも左回り。あら、これはちよつと種類が違ったが。

こつちやって書き連ねてみると、なるほどそうかというものが、リアルな生活やブツの場面にいくつと、いったいどういふ感じがするのだろうか。設計とは、そのバーチャル体験をしていることに他ならない。

(篠崎健一)



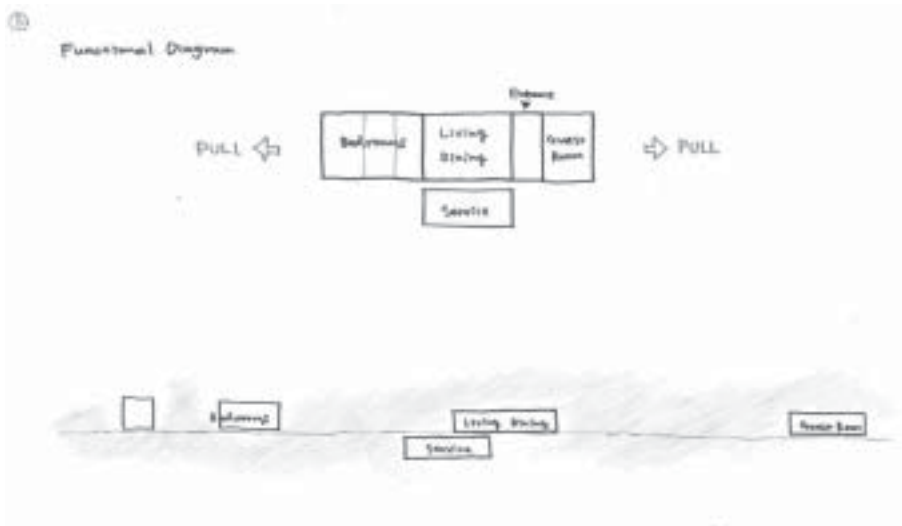
第1案

図面の上が北なのは万国共通。太陽は東(図面の右)から出て西(左)に沈む。住宅はパブリック、プライベート、サービスの3つの部分に分かれ、敷地から、特徴のある3つの庭を切取る。



第2案

図面の左手に日が沈み行くころ、ガーデンパーティーが行われるであろう庭を囲んで、細長く伸びた住宅が敷地全体にひろがる。



第2案の考え方を示したもののコンパクトにつくった建物のかたまりを、引き伸ばしてみた。



第2案の断面図

建物と庭が交互にまざる。

『西洋哲学史』

パートランド・ラッセル

みすず書房, 1970年, ISBN 4622-01901-9

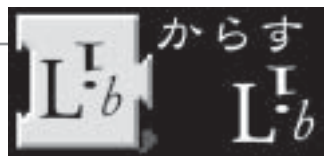


結局、幸せって何なのさ。そんなことを思う暇はない。そうなんだけれども、ふとした時間の狭間に、そんなことを思ってしまうことだってないわけではない。こんな性格だからこそ、気がついてみたら文学部哲学科という何の役にも立たないところに所属していたわけなんだろう。

哲学科というところは、変人の集まりだと思われているようである。事実、変人も多かった。付属校でありながら、成績不振が理由で哲学科に回されてきた、という者たちも少なくなかった。なるほど、哲学科って、変人と、普通の学科には行けない連中の集まりなのか、と思った1984年の春。

孰れにせよ、こんな御時世、幸せって何なのさ、ともう一度考えてみたい気がしなくもない2004年。

(全太)


 Films

「ゴーストワールド」

監督：テリー・ツワイゴフ

出演：ソーラ・バーチ、スカーレット・ヨハンソン、スティーフ・ブシェミ

2001年アメリカ



これは、ひねくれた二人の女の子の話である。

この映画の主人公たちは、自分と被らなくもない。描写がコミカルに描かれているものの、本質的には大衆が好むものをバカにして限られた人しか分らないものを良いとするサブカル少女。わたしは彼女たちほど過剰ではないし、大衆的なものも割と好きだし、最近ではサブカルには寒気がしたりする。けれど、かつてわたしもその時代を通過してここに至っているのだから、ひねくれ具合は彼女達と変わらないし、いや、それ以上かもしれないわけで、「アホだなあ」、なんて鼻で笑いながら観てたけれど、それは7・8年前の自分に言っているのと変わらなかつたりする。

とはいえ、きつとまた十年くらい経ったら、今の自分に「アホだなあ」なんて言ってる自分がいたりするのだ。って、そんなこと考えちゃう時点でまだまだひねくれてるってことなんだろうけれど。(と)



L-b Live



エマニュエル&じょじ伊東&津田君



じょじ伊東&あつたろう



よしだまなぶ



神山朝人：六面に続く

日常の中の阿佐ヶ谷ライブ

自転車で立ち寄って、ライブを楽しむ。小さな扉をくぐってトントンとコンクリートの地下に駆け降りると、ほどよい大きさの部屋が広がり、知っている顔がたくさん集まっている。不思議で愉快なシヨアの始まりである。アサガヤンズがトッパッター。

どっ どん、どっ どっ、どっ どん、どっ どん
だっ たん、だっ だっ だっ だっ だっ たん
たっ た

心臓音のようなビートが体の芯を擦る。
知ってる人が出てくると妙に首を振りだす人。知らない間にリズムをとり始める人。おもしろくないねと言いなから演奏を真剣に見つめる子供。少しずつ音というんな

意識が融解し、混じり合う。

あつという間に人が入れ替わり、伸びのある神山さんの歌声が響き始める。神山さんのフレーズには、歌っている人や歌がよく出てくる。かと思うと伊東さん率いる愉快な方々の演奏が爆笑の渦を巻き起す。まったく意味不明な文句や禁句がリフレインし、何故か頭にこびりついて離れない。

終わってみると胸の中にはフレーズが残り、ビートが残り、弦を弾くその手先のイメージが残っている。そのあとの歓談も然り。気軽に立ち寄ったライブでこれだけ心に残るのは、知ったものが醸し出す雰囲気のおかげでもあるのか。私も年をとってもこんなふうになり合いたい。集めて楽しみたいなと、ちよっぴり憧れてしまった。

(高橋)

ろんどん つうしん
London Report

頭の喜び、身体の喜び

日本に帰って来ると必ず毎回、思うことがある。それは身体を動かすという事。スポーツも含めて全般に、やっぱり、身体を動かすのはいいなあ」といつも感じてしまつたのである。向こうにいる時もたまにジムに行つて汗をかいたり、プールで泳いだりはするものの、やはり何かが違う。確かに身体は疲れるし、運動したという満足感からかご飯が美味しかったり、よく眠れたりはそののだが、その運動中、身体を動かしている最中に身体の中から沸き上がってくるような喜び、楽しさといったものに欠けている気がするのだ。何だかピンと来ない人のために。凄く天気のいい日に海に行き、砂浜にいた瞬間に急いで水着になり、嬉しさの余り海に走つて行く時の様な気持ちと言えは分かりやういだろうか。とにかく、そんなはしゃいだ気持ちがいらないのである。夏に日本に帰つて来ることが多いからだろうか、友達と海に行つたり、野球をしつたりする度にそんな事を感じてしまふ。どちらかと言つと向こうにいる時は、散歩をしている時にそれに近い思いを感じられるのかも知れない。身体がその空気、気温、湿度に触れ、呼吸することを喜び、動くのである。もちろん、それは屋内でも起こりうることだし、ロンドンでスポーツが出来ないと云っている訳ではない。ただ僕の手がそこまで回らないだけなのだ。しいて言えば、スポーツを一緒に出来るような友達が少ないのかも知れない。

しゃぐのである。例えば、素晴らしい小説を読んだとき、又は音楽を聴いた時などに沸き上がってくる気持ちである。自分でそれらを生み出す時にも同じことが言えるのだから、その素晴らしい芸術により想像力が刺激され、頭の中に無限の花を咲かせて、全部、何もかも美しく見せてしまつたような感じである。これは人それぞれでも大分感覚は違つたろうし上手く説明できる自信がないのだが、例えば何をしようかと悩んでいる最中に、素晴らしいこれ以上ないくらいに良い案を思いついた瞬間の感覚。頭の中で何か素晴らしいものが、ぱあっと弾けて広がっていくような感覚が連続してしばらくの間、続く感じなのだ。そんな事が頭の中で起こるものだから、運動している時と同様、いてもたつてもいらなくなつてしまつたのである。

少し話が脱線してしまつたが、そのようにやはり今回の一時帰国でも、身体を動かすのはいいなあ」と再確認することが出来た。もちろん、少しではあるが自分と周りの変化にも気が付く。時は止まつているわけではないらしい。そんな中、テレビでは毎晩オリンピック中継が放映されていた。勝つた瞬間に本当に嬉しそうに飛び上がった、泣き崩れるオリンピック選手を見ながら僕は思わず「かなわんなあ」と呟いてしまつた。いったい何に對しての言葉なのだろうか。僕が経験するはずもない大舞台に對してなのか。もしくは、頭の喜びは、身体の喜びにはかなわいと無意識的に認識でもしているのだろうか。そんな事を思いながら、「頭の喜び」「身体の喜び」についてあれこれと考えてしまつた。どちらの方がより強い感動、喜びを得ることが出来るのだろうか。またどちらの方が自分にとって重要なのだろうか。人の行動の動機は全てその二つによつて分けることが出来るのだろうか。など。一つだけ分つたことがある。どうやら僕は、運動が得意ではない分、身体の喜び「」に對する羨望の感が、「頭の喜び」に對するそれよりもだいぶ強いらしい。「かなわんなあ」はその

なスポーツ選手に對するあこがれのような所から漏れた言葉なのかもしれない。選手達が表彰台の上で誇らしげに胸に下げたメダルを眺めながらこんな事を思つた。スポーツのようにタイムもスコアもない、何かを測る基準がない「頭の喜び」の世界で、金メダルと同じくらい大きなものを勝ち取ることは出来るのだろうか。答えはYes。多分、それは可能だ。決めるのは自分だ。ただその決める基準が何も無いからこそ、難しさ、そしてその可能性の大きさなのだろうか。その基準のある世界での金メダルにしても、並大抵の事では手に入れない。手にした選手は皆、人生の殆どをそのスポーツに費やしている。そして四年に一度、世界で一人だけ、それを手にすることが出来るのだ。果たして今まで、いったい何人の芸術家広い意味での「がそれと同等の又はそれ以上の喜びを手に出れたのだろうか?そしてそれを逆に言い換えれば、金メダルは四年に一度は誰かが必ず手に出来る物なのである。…、そんな事を考え出せばきりが無いのだ。何にせよ僕は、スポーツ選手にあこがれてしまふ。彼らが基準の中で勝ち取る、又は成し遂げる何かは、凄く羨ましく美しく僕の目に映る。そしてそれを見るたびに僕は、「もうちょっと頑張れるんじゃないかなあ」と自分自身を振り返つてみるのである。

(神山朝人)



.....

あなたの平穩な生活を脅かすストーカーを本場米国で培つた最新の技術と装備を駆使して退治します。あなた一人で悩まないでください。

相談無料
 秘密厳守
 フーリガン対策
 指導いたします

produced by
P.D.Agency
 tora@pda.co.jp
 4-3-49-1 Narita-Higashi Suginami-ku
 Tokyo Japan Zip:166-0015
 voice : +81-3-5347-9063
 facsimile : +81-3-5347-9064

.....

オリンピック柔道英語雑記

アテネオリンピック前半を大いに盛り上げた日本柔道選手団。英語を生業とする身してみると、どうしても画面に出てくる英語表記が気になって仕方がなかったのであった。いくつか御紹介してみたいと思う。(望月)

elimination

エリミネーションは「予選」のことだが、本来の意味は「除去」。柔道なら semi fina(準決勝)に残る4選手以外を「除去」することだ。ところが日本語では、敗者を「除く」より勝者を「選ぶ」のほうを採って「予選」としている。「弱いやつは出ていけ」なんて言いにくいから、「強い人が残ってください」にしたってことか。つまり敗者への配慮。あるいは無視、いや、そっとしておいてあげる。結局やってることは同じなんだけどな。

そう言えば国公立大学受験で、一次試験の成績が悪い受験生には二次試験を受けさせないことを「足切り」というけれど、まさにこれこそ elimination。ところがこの言葉の評判が芳しくない。「そんな言い方非道い」というわけで、足切りの正式名称は「第一段階(あるいは第一次)選抜」である。

でもオリンピックの柔道では、一度「除去」されても負けた相手がある程度勝ち進めばもう一度チャンスが与えられていた。敗者復活戦だ。やっぱり敗者を思いやる日本的な仕組みだなあ、とも思えたが、実際はそうでもないらしい。

repechage

何度も画面に出ていた「敗者復活戦」を意味する英語である。どう発音すると思いますか? 正解は「レペシャジ」。なんか英語っぽくないと思ったあなたは正しい。これはフランス語をそのまま借りてきた言葉なのだ。

輸入した言葉を綴りも撥音も変えずに使っているということは、それに当たるものがイギリスにはなかったことを意味する。外食文化に乏しいイギリスにやって来た restaurant の最後の t を読まずフランス流で発音するのがその代表例だ。つまりレストランなんてイギリスにはそもそもなかったのだ。(今だに「イギリス料理」のレストランはほとんど存在しない)

というわけで、どうやら「敗者復活戦」という概念はイギリスのものではなかったらしい・・・いや、本当は近い言葉がなくもないのだが、それはまた後の話にして、とにかく日本から持ち込ま

れたものでもなかった。そのスポーツ用語としての起源は、欧州大陸にあったのである(ボート競技で使われたのが最初らしい)。

では repechage の本来の意味は何なのか。それは英語に直せば rescue。つまり「救助する」なのである。仏和辞典で repechage を引くと、第一義として「水から引き上げること」とある。敗者を船から落ちて溺れた者にたとえて、救助してあげようという意味合いから、ボート競技で始めに使われたのではないだろうか。真偽のほどは分からないが、いずれにせよ、レペシャジには敗者への思いやりが感じられる。なんか大陸的なおおらかさっていうのかな。柔道ではさすがに金銀には及ばないが、銅メダル獲得のチャンスが再び与えられるのであった。

で、英語の「近い言葉」とは?

consolation

「慰め」。英語の「敗者復活戦」は repechage よりも consolation である。大会中、英語メディアは圧倒的にこっちの方が使いやすいそうだった。

Kosei Inoue unexpectedly lost in an early round and in a consolation match.

「井上康生は敗者復活戦の早い段階で予期せぬ敗北を喫した」やっぱりアナグロ=サクソンはそんなに甘くないのだ。負けたやつはかわいそうだから慰めてあげますよ、ぐらいのことなのだ。そんなくらいじゃなきゃそうそう度重なる戦争に勝ち抜いてはいけないのだ。

The winner takes it all.

「勝ってなんぼ」

これが常識。

数多いイギリス起源の球技の一つ、テニスの試合にも consolation がある。日本では「コンソレ」と呼ぶらしいが、これは、わざわざ参加費を払って大会に参加したのに、一回戦負けで終了っていうんじゃないかなっていう不運弱小選手の慰労救済策として考えられた仕組み。要するに、この次もエントリーしてねっていう主催者側のサービスなのである。単なる「慰労」である以上、柔道のように再び本選にかかわることは許されず、敗者同士の別トーナメントで、せっかくだからもっと汗を流しましょうということなのである。

コンソレは別名「敗者戦」なのだそうだが、確かに「復活」をつけたら不適当だ。ここはもう一度、正確に記しておこう。

repechage 敗者救済戦

consolation 敗者慰労戦



万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>



いやいや、メディアの悪口が言いたかったわけではない。零れ落ちる悪口も本心ではあるけれど、この世界はマスコミが切り分けるほど簡単ではない、ということが私がここに記したいことなのである。にもかかわらず、人々は都合よく切り分けられた情報を差し出されると、躊躇なく受け取るばかり。

もっと恐ろしいのが現在のインターネットの普及振りと人々のその受け取り方である。数え切れぬほど多くのホームページが毎日公開され、更新され、流通する情報は留処がない。その圧倒的な量の中に、どれだけ信頼に足るものが含まれているのだろうか。実のところ、相当に疑わしいものが大半であろう。誰もが自由に発信できるインターネットというシステムは素晴らしいものであるし、大きに依存している私である。しかしながら、例えば、誰かがブログに何の気なく書き込んだ一言が一人歩きして、

(一面から続く)

ampm marusho
新井薬師前駅→
あいロード商店街
Kanna
早稲田通り
中野通り
中野ブロードウェイ
中野駅↓

営業時間
平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00
日曜日 17:30~25:00

定休日
毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6
第1三宮ビル1F
Tel : 03-5343-1316

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、パーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。



店内でくつろぐ当紙関係者の
情事もちづき(右)
じよじ伊東(左)

電話線や光ケーブル経由で転々とする間に、出自は不明ながらも真実らしい力を持った言葉になってしまふことも珍しくはない。元の言葉が真実であろうとなかろうと、それを読んだ誰かが、こんなことが書いてあつたぜ、と友人に伝え、場合によっては自分が運営するホームページや掲示板に書き込んだとしたら……そして、それを読んだ人がさらに別のところで伝聞に過ぎぬその情報を発信したとしたら……それは、あつという間に、ネット上のあちらこちらに記された情報となり、あちらこちらに書かれているのなら本当に違いない、と信じる人々が増え、その人たちがまたそれをどこかに書き散らし……といったことが、現に世界中で起こっているはずである。七〇年代に流布された、口裂け女のような風説の伝播は、今やインターネットという光速の乗り物を手に入れ、桁違いの勢いで地球の隅々まで一っ飛び、善くも悪くも強烈な情報社会である。

私たちは嘗てないほどの情報社会を生活している。その量の多さ、速さは素晴らしいけれど、同時に、それをどう処理するかという、大変厄介な問題に直面せざるをえない。また、情報の多さ、速さの故に、風化が早いのも気になる。国家の首相たるものの年金未納問題にまつわる種々如きは、あつという間に忘却の彼方である。そんなことで良いわけではないのだが。

こんな時代だからこそ、目先のことに踊らされることなく、じつくりと真善美を見極めていくことが肝要だ。そんな、もっともらしいことを言ってみたりして。

だから、諸君は、私の書く文章にどんなに虚構が混入しようとも、惑わされることなく、真実を見極めてくれたまえ、と。

こんな落ちでどうよ。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第六巻第八号、通巻第六八号、無事、発行できました。
新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。
次号発行予定日は二〇〇四年九月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野板上駅

ファミマ